

# 宅

六年  
画数 6  
筆順  
オン  
クン  
宅

成り立ち



植物が、寄るべき大地に根づいて、芽を出した形を表し、「身を寄せる」意味を表した「宅」と、家の形を表した「宅」とを組み合わせて作った字です。

「わが身を寄せる」家を表した字です。「住居」のことです。例住宅、家宅、邸宅、自宅、私宅、社宅、新宅、宅地、在宅、帰宅、宅診。

使い方

▽ぼくの家の近くに、お金持ちの大邸宅があります。広い庭に囲まれた大きくて立派な家です。  
▽わたしは〇〇会社の社宅に住んでいます。いつか自分の家を建てて住みたいと思っています。やはり自宅に住むのが一番です。

熟語例

- ▽住宅（住むための家。「住宅街」などと、つかいます。）
- ▽家宅（家。住居。「警官が家宅捜索を行って、証拠を押収した」などというふうに、つかいます。）
- ▽邸宅（屋敷。大きな家のことを言います。）
- ▽自宅（自分の家）
- ▽私宅（個人の家。「首相は、官邸から私宅にお帰りになりました」などというふうに、つかいます。）
- ▽社宅（社員を住まわせるために、会社で用意した家）
- ▽新宅（新しく建てたり、引っ越して来たりした家）
- ▽宅地（家を建てるための土地）
- ▽在宅（家に居ること。）

# 担

六年  
画数 8  
筆順  
オン  
クン  
担

成り立ち



崖の上に人がいる形を表した「担」（危年854）と、言葉を発する意味を表した「言」とを組み合わせた「詹」は、「言葉をかけて力づける（声援すること）」という意味の字です。その意味を借りた「旦」（元旦の旦で、日が出たばかりの「朝」を表した字）と、「手」とを組み合わせて作った字です。

重い荷物をかついだ人に「がんばれ、がんばれ」と声援するのは「詹」ですが、直接、手助けして、その荷物を「かつぐ」のが「擔」です。「担」は「擔」の略字です。

例担荷、担架。

「かつぐ」「になう」という意味の字ですが、「仕事を引き受ける」「仕事を受け持つ」という意味にも使います。例担任、担当、負担、加担、分担。

使い方

▽サッカーのゲームを見ていたら、ラフプレーで選手が一人倒れてしまいました。なかなか起きあがれませんでした。とうとう担架で運ばれて行きました。  
▽わたしたちは教室をきれいにすることにしました。床をはく係、机の上をふく係、窓をみがく係などと、仕事を分担して、そうじをすることにしました。終わった時にはどこもかしこもきれいで、とても気持ちやすつきりしました。

熟語例

- ▽担架（けが人や病人をのせて運ぶ道具）
- ▽担任（任務としてその仕事を受け持つこと。また、その人。「ぼくたちの担任の先生は、石川先生です」などというふうに、つかいます。）
- ▽担当（ある仕事を受け持つこと。）
- ▽負担（義務としてその仕事を引き受けること。また、「重荷」という意味にもつかいます。「それはわたしにとって負担です」などと、つかいます。）
- ▽加担（人のすることに自分も加わること。「負担」とも書きます。「悪事に加担する」などと、つかいます。）